

近のみならず、他にも試錐の候補地があるらしく思はれる。

七、結 論

日向湖附近は秩父古生層を主とし、之を貫きて花崗岩・輝綠玢岩・安山岩等の噴出岩が進入して居る。安山岩進入後鑛床生成作用も行はれ、各所に石英脈を胚胎する。日向湖附近は土地陥没によりて、現今の複雑なる地形をなせるものなるべく、斷層線・龜裂線多し。

日向湖南岸の湧泉はこれ等の弱線に沿ひて湧出するものにして、泉溫・湧出量共に變化に富

む。湧泉千分中固形分總量三一・四三八に達し、其の中食鹽分大部分を占む。該湧泉中には海水の混入すること多く、泉溫・湧出量の一定せざる原因の一部は其れによるべしと推定さるゝも他に地學的の原因ありと考へられる。日向湖南岸は溫泉の試掘の候補地の一ならむも、徴候顯著なる地の試掘に於ても失敗に了はる例多きを以て、其の位置・試掘方法等につきては十分なる研究を要す。調査の範圍に於ては日向湖北岸其他に於ても、鑛泉湧出の徴候ある地點あるものゝ如し。

(完)

門司市及山口縣厚狹町附近の硯石統

竹 原 平 一

門司市附近には時代未詳の中生層が存在して居る事は明治廿年代より既に知られて居たが其

の後矢部教授の御研究にて古生層に屬する部分も明に混入して居る事が判つたが、地質構造は

門司市青濱の梅花石と共に久しく明瞭を缺いたまゝで居た。

然るに近年小倉市南方徳力より Palaeo-

fusulina が藤本理學士により採集され尙此の附近の石原町南西樋ノ峠隧道西口には珊瑚を有する尙ほ古い地層（前に地球に雜報として述べたものにして福岡二十萬圖幅中の輝岩及角閃岩）と（多分不整合に）接した礫岩があり小岩井理學士によつて其の中からフズリナ類を含む石灰礫が発見され益々古生層の存在が裏書せられた。併し門司市附近には山口縣の硯石統と全く酷似した地層が存在し、現在赭色凝灰岩を採石し赤間ヶ關硯を製造して居る。且山口縣豊浦地方の硯石統中に見られると云ふ（小林理學士の御教示による）クリプトゾーン類の構造を呈する溫灰色（warm grey）細粒砂岩層も觀察する事が出来、小林理學士の得られた其の他の data を參考させて頂くと門司市附近には明かに硯石統に屬するものが存在しフズリナ・梅花

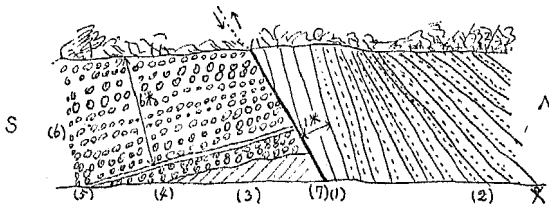
石・珊瑚等を含む古生層を不整合に被覆して居る。不整合面に關しては後に詳報する。硯石統の最下部層を成す礫岩（石灰岩・チャート・粘板岩・砂岩・片岩等の角礫及圓礫を砂質のものにて凝結す）は門司市外太刀の浦海岸より白野江山中、東郷村大積の北方、櫻峠等を過ぎり小森江附近に通じ企救郡石原町、鞍手郡脇野附近に達する。門司附近にては概して北西に傾斜する故門司港は硯石統の山を背後に控えて居る事になり、下關港及門司港を眼下に見下す風光明麗な風師山（＝風頭）は勿論硯石統より成り門司市廣石より之に通ずる遊覽自動車道路側には好露出があつて基底礫岩より四百米ばかり上位に二枚の薄石炭層を含んで居るのが觀察出来る。石炭層は砂岩・礫岩・頁岩の互層中に數厘の幅をなして存在するが此の中より化石は未だ採集するに至らない。前述のクリプトゾーン類似構造を有する砂岩は石炭層より約百米ばかり下位に存す。當地にては赭色凝灰岩は南西に向ふに従ひ

發達が悪くなり風師山附近にては赭色のものは餘り見當らず綠色凝灰岩（門司石）が此に代つて居る。北九州の硯石統も近き將來に於いて白堊紀のものなる事が充分證明せられるであらう。

次に山口縣厚狹町附近には鴨庄の含シユードモノチス砂岩に接して其より以北に硯石統が廣く分布して居り赭色凝灰岩も門司のものより厚く、且礫岩（チャート・粘板岩・砂岩等の礫を含む）が多い。砂岩中には局部的ではあるが偽層及漣痕等を示すものも見られる。當地にては未だ硯石統の明な基底を發見するに至らないが調査の進むに従ひ或は突留得る可能性が無いでもない。福正寺西方は一帯に硯石統が分布して居るが瀬戸南方二百米にある貯水池の縁には植物化石を含む灰白色頁岩及砂岩層が露出して居る。北五十度東の走向にて北西三十度の傾斜を示し赭色凝灰岩（赤間ヶ關硯石）と整合し其の上約三十五米の層準にある。尙ほ硯石統に接し

門司市及山口縣厚狹町附近の硯石統

見 取 圖



- (1) 黑色粘板岩 (2) 含白雲母灰綠色砂岩シユードモノチスを産す 走向北八十度東、傾斜北五十度 (3) 綠色中粒砂岩 (4) 不整合面 (5) 第三紀粗粒砂岩、炭質頁岩 走向北八十度西、傾斜南十五度 (6) 第三紀礫岩 (7) 逆斷層、走向北八十度東、傾斜北四十二度。

て居る鴨庄のシユードモノチス砂岩（Norie）は北方へ傾斜する。而して *Cladophlebis*, *Nilssonia*, *Neocalamites*, *Dictyophyllum*, *Potozamites* etc.（大道畑・日峰山中腹・栗田其他より多量に良保存のものを産す）を含む頁岩層（Rhaetic）も

北方に傾斜するので前記シユードモノチス層は頁岩層の層準より一見上位に來る如く思はれるが、鴨庄より福正寺に至る道路の西側にて最南端の切割に第三紀層を切る北より南へ押上げた逆斷層が觀察さ

れ之は尙ほ西方に續いて居るので植物化石層と
シュードモノチス層との關係は尙ほ充分調査し
て見たいと思つて居る。此の切割に見られる第
三紀層は三疊紀層の上に不整合に乗り不整合面
も明かに見えて居り基底より一米上に厚さ二十
糎の炭質頁岩乃至植物破片を含む粗粒砂岩が礫
岩中に含まれて居る。見取圖を書いて見ると前

頁の如し。
門司市及厚狹町附近の地質は地質圖を附して
追つて詳報する豫定ですから今は氣附いた二三
の點を述べる事にした。木下教授及小林理學士
には少なからざる御教示を賜はつたことを厚く
感謝します。

(完)

島根縣に於ける岩石地質學的著例の

摘要とその考察 (三)

園山市太郎 遺稿

一三、地層關係の斷片錄

1. 山間部第三紀層

山陰線石見江津を經由し、三江線川本驛から
更に縣道を約二十軒で邑智郡高原村に達する。
全部花崗岩の高原地帯であるが、隣村布施村と

の境界信峠^{ノブタケ}には、安山岩凝灰岩を含む花崗砂岩
があり、數條の薄い炭質部を夾み偽層を爲すの
である。之れから南・南西への幅は僅に一軒餘
であるが、長さは約二・五軒字段原に達するま
で、道路に沿ふ長橢圓形の地域は、猶花崗砂岩